

## シリーズ

## “キラリ企業”の現場から 第12回

当公社のさまざまな事業を活用しながら経営に取り組む企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第12回目は「鼻緒付きの靴『楽闊歩（ラカッポ）』」というユニークな商品で話題を呼んでいる有限会社シンカーズ・スポットを訪問し、代表取締役の長谷川武氏にお話をうかがいました。

同社は、当公社の事業可能性評価事業（注1）での事業評価、および事業化支援や東京都知的財産総合センター（注2）での弁理士相談などを利用して経営に活かし、成果を挙げています。

## 確かな技術と履き人への思いやりで顧客の心をつかむ

（有）シンカーズ・スポット

### 生き残りをかけて

（有）シンカーズ・スポットは、下町情緒がただよう隅田川の厩橋のほど近くにある。長谷川社長は、靴メーカーで製造の技術を身につけた後、30年程前に企画会社として独立。大手メーカーのウォーキングシューズの企画開発を行っていた。

しかしながら、グローバル化の進展、価格競争によるコストダウン要請などの影響により、靴の生産拠点は海外にどんどん移転していった。このような状況に危機感を抱き、国内メーカーが生き残るためにはどうするべきかと考えた社長は、国内でしかできないもの、価格競争にならないもの、日本独特のものを作るしかないという結論にたどりついた。



履く人を思いながら一足一足丁寧に縫い上げる長谷川社長

### 鼻緒付き健康靴‘楽闊歩’（ラカッポ）誕生！

近年、女性を中心に外反母趾<sup>がいはんぼし</sup>やかかとの痛み等、足のトラブルで苦しむ人が増えている。その原因は、従来の靴がつま先の部分を細くし、指が動かない設計になっているからである。いわば自分の足に合った靴ではなく、靴に足を合わせているのである。このような足に合っていない靴を履き続けることにより、さまざまな健康障害を引き起こすと言われている。

そこで、思いついたのが日本古来の鼻緒と、靴の融合である。その仕組みは、靴の中敷に鼻緒をつけ、つま先部に余裕を持たせることにより、指が自由に動くようにするとともに、靴の中で足が固定されるというものである。

そして長谷川社長は、この鼻緒付きの靴のブランド名を、“健康によい”“足に合った靴”で、「楽に、楽しく歩いて欲しい」との願いから「楽闊歩（ラカッポ）」と命名した。

この靴を履いて歩くと、足の指を使って歩くことになり、足の血液還流促進にもつながる。また、履き心地、歩き心地も抜群であり、結果として足のトラブルも防止・改善される。製作に際しては、足の形は人それぞれであるため、必ず足を測定し、その人に合った鼻緒の位置を決めている。そのため同社の製品は、柔らかく軽い革を使用し、全てが手作りのオーダーメイド生産である。まさに、自分の足に合った、自分だけの靴となる。

このように、この靴は「足のトラブルを抱えている人」はもちろんのこと、「歩きやすい靴を求めている人」、「健康志向のためウォーキングをする人」などには、まさにピッタリの靴といえる。

### お客様とのふれあいを大切にした店舗作り

長谷川社長は、同社のオーダーメイドというものづくりの特徴を活かすとともに、お客様に製品の良さを知ってもらい、履きごこちの良さなどを実際に試していただくため、販売にあたって店舗が必要と考えた。

また、足の測定や製造現場をお客様に見ていただき、安心して靴を買っていただけるよう、店舗内に作業場を設けた。



世界に一つしかない自分だけの靴(左)  
靴内の鼻緒がついた様子(中) 股割れ靴下(右)

次に考えたのは試し歩き用のミニ歩道の設置である。履くだけでは本製品の良さはわからない。実際に履いて歩いてもらってこそわかるのだ。その人に合った満足いただけるような靴を提供するには、このミニ歩道は欠かせないものであった。

そして、なによりも店舗を設ける最大の理由は、直接お客様に接することから得られるさまざまな情報を、さらなる商品開発に活かすことにある。

その店舗は平成 15 年 9 月 2 日（靴の日）に台東区駒形にアンテナショップ「楽闊歩 (LA-KAPPO)」としてオープンした。



↑ 下町風情にフィットした店構え  
靴づくりの様子が行きかう人の目を引く



→ ためし歩き用のミニ歩道と  
店内の様子

## 会社の支援事業を経営に活かす

ユニークな発想と靴づくりのプロとしての技により、積極的な事業展開を図ってきた同社であるが、公社の事業など公的機関を有効に活用し、経営に役立てている。以下は、同社の活用事例である。

**（事業可能性評価事業の利用）** 同社が事業可能性評価を受けたのは、平成 15 年 3 月である。それ以降、支援担当マネージャーを中心とした継続的な支援を受けている。この事業は、マネージャーなどが直接経営に関する相談を受けるもの（アドバイス機能）と、課題に応じて必要な支援につながるもの（コーディネート機能）とに大別される。内容は、販路開拓支援、資金調達支援、その他全般的な支援となっている。

**（東京都知的財産総合センターの利用）** 製品に関する基本特許については同センターに相談。その際のアドバイスは非常に効果的であった。その後特許を出願し、権利化に成功した。さらに改良特許についてのアドバイスも受け、これもわずか 4 ヶ月で権利化を実現した。商標についても、アドバイスに基づき自ら出願し、「楽闊歩」を登録、これにより知的財産の保護は万全となり、他社との競争力強化につながった。

この他公社の事業では、他社との特許実施契約の際に注意すべき点等について、「ワンストップ総合相談」や「専門家派遣」等を活用している。

## 注文が殺到、納品は一カ月半後

こうした中で、「楽闊歩」はNHKおはよう日本「まちかど情報室」や日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」等テレビや新聞等マスコミにも取り上げられたほか、口コミも相まって着実に顧客を獲得している。現在では、足のトラブルに悩む人だけでなく、歩きやすい靴を求める人など、日本中から問合せがあり、これまでのリピーターからの注文に加えて予約が殺到し、納品は注文してから一ヶ月半程度かかるほどの人気ぶりである。

高齢化世代が増えていく日本で、健康意識の高まりとウォーキング人口が増加傾向にある中で、ますますニーズは高まっていくだろう。

## 更なる飛躍に向けて

長谷川社長に将来の夢を伺ったところ、「技術者の養成を早々に行い、全国の靴販売店や整骨院等に『楽闊歩』のコーナーを作っていただき、多くの方に気軽に購入していただけるようにしたい」とのこと。

ちなみに“モノ”が溢れている日本において、消費者の心をつかむキーワードとして「本物志向」が挙げられる。同社は、長年の経験で培った確かな技術と、履く人への思いやりという強みを活かし、『本物の靴店』へと成長している。これからも課題を克服し、更に飛躍することを心から期待したい。

（事業戦略支援室 片倉圭三）

（注1）新たな事業展開を目指す方を対象に、新規事業の可能性について「評価」し、成長性が高いと認められた事業プランに対して公社が行う各種の支援事業で、「継続的な事業化支援」を実施している。

（注2）中小企業の知的財産の創造・保護・活用の促進を目的に東京都が設立し、(財)東京都中小企業振興公社が運営している機関。相談事業（一般相談、特許・意匠・商標相談、契約・訴訟相談、技術相談）、普及啓発事業、助成事業の3つを主な事業を実施している。

企業名：有限会社シンカーズ・スポット

店舗名：「楽闊歩 (LA-KAPPO)」(ネオフィット製法のウォーキングシューズ専門店)

営業時間：月～金 10時～19時 土10時～18時 休 み：日曜・祝日

代表者：長谷川 武 所在地：東京都台東区駒形 2-3-5-109

T E L : 03-3845-0546 F A X : 03-3845-0590

E - m a i l : thinkersspot@nifty.com